

2024年度（令和6年度） 関西創価小学校 学校評価

1. めざす教育像

児童一人一人の健やかな心と身体を育み、確かな学力を育成する
闊達・友情・根性をモットーとして、世界市民の基盤を育てる
恵まれた自然環境の中で豊かな感性を磨き、平和の心を育む

2. 創価学園ミッション

創造性豊かな世界市民の育成

3. 学園生育成ポリシー [関西創価学園一貫教育]

一人も残らず、「平和主義、文化主義、人間主義」のグローバルリーダーに

4. スクールポリシー

明日も行きたくなる学校づくり

1. 創立者 池田先生のもとに集い合った全ての児童が「学ぶ喜び」を感じる学校
2. 創立者 池田先生のもとに集い合った全ての児童が「成長する喜び」を感じる学校

未来につながる学校づくり

- | | |
|-----------------------------|-----------|
| 1. 使命の舞台で活躍する「児童の可能性」を育てる学校 | （可能性の育成） |
| 2. 創立精神を学び「平和を希求する心」を育てる学校 | （心の育成） |
| 3. 世界の平和に貢献する「世界市民」を育てる学校 | （世界市民の育成） |

5. 中期的目標

(1) 学力を身に付けるための教育内容・方法の充実

- ① 児童が落ち着いて学習に取り組み、友達と切磋琢磨する中で、基礎・基本の定着を図る。さらに、個に応じたきめ細かな指導や学力保障の取り組み、ICT機器の活用等の指導方法の工夫・改善により、児童に学ぶ楽しさを実感させ、授業や家庭学習等に主体的に取り組む意欲や態度を育成する。
- ② 「基礎的な知識・技能」、「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力」及び「主体的に学習に取り組む態度」、いわゆる学力の三要素から構成される「確かな学力」や、本校の目指す3つの学力（「学んだ力」「学ぶ力」「学ぼうとする力」）を高めることに力点を置いていきたい。「学んだ力」とは、教科をはじめとする学習内容の基礎的・基本的な知識や技能であり、「学ぶ力」とは、問題を考えたり、学んだり、学びあっていく学習方法を含めた学び方である。そして「学ぼうとする力」は、学習内容に関心を持ち、進んで学んでいこうとする意欲や態度である。さらに、活用しよう、深めようとする力でもある。こうした学力をバランス良く育てることを目指し、教育目標や内容を見直していく。
- ③ 学習指導要領総則で示された、育成すべき資質・能力も視野に入れながら、「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」という観点や「主体的・対話的で深い学び」という学びの本質的な観点

も大事にしていきたい。そして、学級やグループで話し合い、発表し合うなどの協働的な学習や言語活動、各教科等における探究的な学習活動等に力を入れていく。

(2) 豊かな人間性を育む教育内容の充実

- ① 価値観の多様化とともに、社会全体にモラルの低下が見られ、社会性や規範意識、道徳心の低下などが指摘される現状を踏まえ、児童に基本的な生活習慣や規範意識を身に付けさせ、豊かな人間性や社会性を育む「心の教育」の充実を図りたい。特に、人・社会・自然などとかかわる体験活動や異学年交流、「ドリーム・プログラム」(卒業生による講演)の充実、家庭との連携を通して、心の教育の充実に向けた取り組みを推進する。
- ② いじめ、不登校等の未然防止、早期発見・早期解決に取り組み、一人一人を大切にし、児童の好ましい人間関係づくりを推進する。

(3) 「世界市民」を育成するための教育内容の充実

- ① 「世界市民」育成のために、①「世界の翼」となる英語教育の充実、② 探究型の学習を進め「世界市民」としての「豊かな国際性」を育む教育を推進する。
- ② 英語の短時間学習(英語モジュール)を含めた、英語の授業の充実を目指す。また、創価タイム(総合的な学習の時間)をはじめとした、英語以外の教科での世界市民教育の取り組みを充実させていく。

(4) 時代に即した学校教育の推進(情報教育・連携教育)

- ① Society5.0 の社会に生きる児童は、主体的に対応できるための様々な力が要求される。そのため、ICT 機器を学習活動に積極的に活用し、児童の情報活用能力を培うとともに、情報モラル教育を推進し、Society5.0 の社会に主体的に対応できる児童の育成を図っていく。
- ② 急激に変化する社会の中で自立した一人の人間として成長していくためには、小学校から中学校へと移行していく段階で豊かな学びと育ちを保障していくことが重要である。そこで、児童の発達を軸に、小学校と中学校が児童の実態や前後のつながりを視野に入れた一貫性のある連携教育(小・中のブリッジプログラム)の充実に努めたい。

(5) 規律正しい、安全で健康的な学校生活

- ① 遠距離通学者が多い本校の場合、登下校時をはじめとする児童の生活における安全確保は重要な課題である。また、通学時のルールへの順守やマナーの向上などは、社会生活を営む上で、是非とも身につけさせたい習慣でもある。ルールへの徹底とともに心を育て、思いやりのあるマナーの向上を図る。
- ② 児童の心身の健康を保持・増進していくために、リズムある生活習慣の定着を図るとともに、健康を大切にする意欲や態度を育てたい。また、学校給食では、安全・安心を最優先に衛生管理の徹底に努め、栄養教諭と連携して食に関する指導の充実を図り、望ましい食習慣の確立に取り組んでいく。

(6) 教員の資質・能力の向上と研修の充実

- ① 創価教育の目指す教育のあり方や、学校が直面する様々な教育課題の解決のため、教員の資質・能力の向上のための各種研修の充実を図る。
- ② 授業力向上のため、校外研修への参加や、意図的・計画的な校内の授業研修を継続的に行っていく。

(7) 入試広報、児童募集の充実

- ① 少子化が加速する中、本校の目指す教育として掲げている「可能性の育成」、「心の育成」、「世界市民の育成」を柱にした教育活動をより積極的に伝えていく。そのために、教育の具体的な実践映像を効果的に使

いたい。また、ホームページを活用することによって教育革新のイメージをアピールしていく。

- ② 学校見学会などの募集行事では、より本校の教育に関する理解を深めていただく機会として、体験授業・体験給食などを実施し、募集に結びつけていきたい。
- ③ 募集要項を受験生や保護者の利便性の拡大を目指し、WEB上に掲載。さらに、WEBを使用しての出願（WEB出願）を活用していく。

6. 本年度の重点目標と具体的方策

〔I〕「豊かな心」を持つ「世界市民」を育むための教育の推進

今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標	自己評価
(1) 創立精神の深化 1. コスモタイムの充実 2. 日常的な取り組みの具現化 3. 「創立者とともに」を読み深める 4. ファウンダータイムの実施	・コスモタイム（全校道徳）を月に1回実施し、創立者の思想を学ぶ ・創立の精神を体得し、日常生活の中で具現化していく ・「創立者とともに」を読み深める取り組みを行う ・創立者の思想を学ぶ時間として、ファウンダータイムを設ける	・月に1回のコスモタイムを実施している ・創立精神を具体的な取り組みとして実施している ・「創立者とともに」の学習を行っている ・ファウンダータイムを実施している	・月1回のコスモタイムを実施した ・「創立者とともに」を学習資料に学びを展開した（三大行事） ・ファウンダータイムを実施し、各学年ごとに創立者の思想を学ぶ機会を設けた（10月・11月）
(2) 道徳教育の充実 1. 子どもが自分事としてとらえられる授業の展開 2. 学年で道徳の授業内容を検討 3. 公開授業を積極的に実施 4. 各学年における授業実践の共有	・各学年の道徳カリキュラムと道徳全体計画に基づき、計画的に授業を進めるとともに、児童の心を育む道徳の授業を展開する ・道徳部会が中心になり、各学年で授業内容を検討する ・道徳部会の教員が授業を公開し、授業研究会を行う ・各学年で行っている授業実践を共有する	・児童の心を育むための道徳の授業を展開している ・各学年で道徳の授業内容を検討している ・道徳の公開授業を行い、授業研究会を実施している ・各学年で行っている授業実践を共有している	・ロールプレイなどを入れながら、ソーシャルスキルを身に付ける活動を実施した ・道徳部会担当教員を中心に学年でワークシート等を共有した ・2学期の公開授業（太田教諭）を通して、実践共有を行った ・2月の私学人権研修において、小学校の授業の取り組みを報告した

(3) 読書習慣の定着 - ノーベルタイムの定着 - ノーベルトレイン（車内読書）の習慣化 - チャレンジ図書（学年別課題図書）の読了を推進 - 読書を通して感情の表現ができるように児童を育成	- 朝のノーベルタイムの定着を図る - ノーベルトレインを習慣化する - チャレンジ図書（学年別課題図書）の読了を推進する 「ピノキオおはなし会」を実施する - 読み聞かせを積極的に行い読書に親しませる - 各行事において読書の推進に取り組む	- 朝のノーベルタイムやノーベルトレインを習慣化するために、各クラスで取り組んでいる 90%以上の児童が、チャレンジ図書（学年別課題図書）を読了している 「ピノキオおはなし会」を実施している - 図書の時間や学級の時間を活用して、読み聞かせを行っている - 各行事において読書の推進に取り組んでいる	- ノーベルタイムは、各学年・学級で積極的に取り組み、定着しつつある。特に8:30をスタートにしている学年もあり、良い雰囲気であった - チャレンジ図書の読了を推進 83%の児童が読了した - ノーベルトレインは2学期後半から、取り組める児童が増えてきた 「ピノキオおはなし会」を開催。良書や一流の芸術にも触れる貴重な機会になった - ノーベル図書館の貸し出し冊数は22,123冊、一人当たりの貸し出し数の平均は39冊であった - 図書の時間や学級の時間を活用して、読み聞かせを行った - 読書教育推進・図書館協議会を毎月1回定例で開催した（計9回開催） - 移動図書館を実施した（宮沢賢治特集） - ビブリオバトルを開催した（英知の日5.6年生） - 大阪私学の読書会に5.6年生の代表が参加した
(4) ユネスコスクール・キャンディデート校としての体験学習の充実 - きょうだい活動の充実 - 自然を生かした栽培活動の推進 - 環境教育・平和教育の推進 - 情報モラルの定着 - 主体的・健康的なICT機器の活用	1年生との、きょうだい活動を充実させる - 本校の豊かな自然環境を生かした取り組みを実施する - 自然を生かした栽培活動を推進するために、生活科と総合的学習（創価タイム）の充実を図る	1年生との、きょうだい活動を実施している - 本校の豊かな自然環境を生かした取り組みを実施している - 生活科と総合的学習（創価タイム）の時間に栽培活動を実施している	- 各学年が1年生と関わり、きょうだい活動を実施した 2年:学校案内・おもちゃ大会 3年:笹飾りづくり 4年:竹の子掘り 5年:さつまいもの栽培 6年:新入生歓迎の集い、清掃活動、日常的なお世話、ペアド・リーディング、凧づくり、凧あげ

6. メディアリテラシーの向上	・創価思想をもとにした、環境教育・平和教育の充実を図る ・SDGs をもとにした探究型学習の取り組みを行う ・ICT 機器を活用することを通して情報モラルの定着を図る ・主体的・健康的な ICT 機器の活用を実施する ・メディアリテラシーの向上を図るための取り組みを行う	・創価思想をもとにした、環境教育・平和教育を実践している ・SDGs をもとにした探究型学習の取り組みを行っている ・ICT 機器を活用する際に、情報モラルについて指導している ・主体的・健康的な ICT 機器の活用を実施している ・メディアリテラシーの向上を図るための取り組みを行っている	・ユネスコスクール・キャンディデート校として、環境・平和・人権学習に取り組んだ 1 年:栽培活動 2 年:手話合唱 商店街の見学・交流 秋の自然見つけ 3 年:えんとつ山の見学 東西創価小平和交流会 平和学習の発表 4 年:地域の方との交流 地域清掃活動 5 年:さつまいもの栽培 お米の栽培 エコライフ通信簿で SDGs について考える 3 年生とのペア読書 移動教室を通しての自然体験 6 年:藍の栽培 藍染めの体験 ユニセフの出前授業を通し世界の実状を学ぶ ユニセフ募金活動に参加 5 年・6 年:織田友理子さんによる特別講演 (NPO 法人 PADM 遠位型ミオパチー患者会代表) ・ICT 機器を活用する際の情報モラルについて指導した ・児童が主体的に ICT 機器を活用をできるよう、授業で活用した ・メディアリテラシーの向上を図った ・端末のネットセキュリティの見直しを行った
-----------------	---	---	--

〔Ⅱ〕「確かな学力」の定着で可能性を伸ばす教育の推進

今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標	自己評価
(1) 児童主体の授業による学力の定着 1. 主体的に学ぼうとする児童を育てる企画を実施	・学年や教科部会で、児童の課題を明確にし、児童	・授業において、児童が主体的に学ぼうとする取り組みを行っている	・各教員が、授業において、児童が主体的に学べるように工夫した

2. 学びに対する内発的な意欲を引き出し、学びの習慣を身につけさせる 3. 総合学力調査の結果を確認し、学力の定着を図る	の主体性を引き出すための授業の工夫を行う ・児童の主体性を引き出すための授業実践を公開授業、研究授業で実施する ・SOKA ノート（自主学習ノート）の有効活用やドリルパーク（WEB 学習教材）などを活用しながら、内発的な意欲を引き出し、学びの習慣を身につけさせる ・漢字検定への取り組みを通して、目標に向かって主体的に取り組めるようにする ・総合学力調査の結果を確認し、学力に課題のある児童に対して、補習を行う	・教員全員が、児童の主体性を引き出すための授業実践を公開授業、研究授業で実施している ・SOKA ノート（自主学習ノート）の活用、ドリルパーク（WEB 学習教材）などの活用を通して、学びの習慣を身につけさせている ・漢字検定で 90%以上の児童が合格している ・学力に課題のある児童に対して、補習を行っている	・教員全員が、児童の主体性を引き出すための授業実践を公開授業、研究授業で実施した ・SOKA ノート（自主学習ノート）の活用のために、創価ノートグランプリを 2 回開催した ・ドリルパーク（WEB 学習教材）などの活用ができるよう工夫した ・漢字検定の受検に向けて、教員が児童にきめ細かいアドバイスを行った ・漢字検定で 97.3%の児童が合格した ・総合学力調査の結果を踏まえて、児童の課題を分析した ・各学年が課題のある児童に、前年次までのテキストを作成し学習を支援した ・6 年生では、希望者を対象に、中学数学の学習を行った
--	---	---	--

(2) 英語教育の充実 1. 楽しく意欲的に学べる英語の授業を実施 2. 全学年のイングリッシュタイムの充実 3. 5・6年生を対象にした「創立者杯英語暗唱大会」を実施 4. 1年生から4年生を対象にした「Special English Day」の設定 5. 英語を通して人と繋がる機会を設ける (アメリカ創価大学の学生・創価大学の留学生・関西創価高校・海外来賓など)	・教科部会で授業内容を検討しながら、授業の充実を図る ・全学年で担任が朝のイングリッシュタイムを教材(Switch on)を活用して実施し、英語力の定着を図る ・5・6年生を対象にした「創立者杯英語暗唱大会」を目標に、児童が意欲的に英語の学習に取り組めるようにする ・1年生から4年生を対象にした「Special English Day」の取り組みを通して英語への関心を高める ・6年生のオンライン留学、アメリカ創価大学の学生との交流、5年生と創価大学留学生との交流であるグローバルキャンプ、関西創価高校の生徒との交流を通して、英語への関心を高める ・海外来賓をお迎えしての国際交流行事を通して、世界に目を向ける教育を行う	・毎週の教科部会で授業内容を検討し、授業の充実を図っている ・全学年で担任が朝のイングリッシュタイムを、教材(Switch on)を活用して実施している ・「創立者杯英語暗唱大会」を実施している ・「Special English Day」を実施している ・6年生のオンライン留学を実施している ・6年生がアメリカ創価大学の学生と交流している ・5年生がグローバルキャンプを実施している ・関西創価高校の生徒との交流を実施している ・国際交流行事を通して、世界に目を向ける教育を行っている	・毎週の教科部会で授業内容を検討し、授業の充実を図った ・Duolingo、E ステキッズ(オンライン多読)、英検 Jr. オンラインラーニングなど、ICT 使った教材を活用した ・全学年で担任が朝のイングリッシュタイムを、教材(Switch on)を活用して実施した ・イングリッシュタイムで活用できる動画や歌をまとめるため ICT を活用した ・第4回「創立者杯英語暗唱大会」を開催した(5、6年生) ・「Special English Day」を開催した(3、4年生) ・6年生のオンライン留学を実施した ・6年生がアメリカ創価大学学生との交流を実施した ・5年生がグローバルキャンプの実施した ・6年生が関西創価高校ラーニングクラスター(LC)の生徒との交流を実施した ・ジャマイカのリチャーズ駐日大使をお迎えして児童との交流会を行った ・インド創価女子大学のクマナン博士をお迎えして授業参観をしていただき児童との交流を行った
(3) キャリア教育の推進 1. ドリーム・プログラムの実施	・卒業生から体験を聞く「ドリーム・プログラム」を実施し、社会で活	・卒業生から体験を聞く「ドリーム・プログラム」を実施している	・「英知の日」記念の集いで看護師として活躍する釣聡子さんによる「ドリ

2. 卒業生や中学生・高校生とつながる機会を設ける 3. きょうだい学年のつながりからの学びを推進 4. フィールドワークでの学びを推進	躍している先輩から学ぶ機会を設ける ・学園ステイや、英語の授業での交流などを通して、中学生・高校生とつながる機会を設ける ・きょうだい学年のつながりを通して先輩の姿から学びを深める ・フィールドワークを実施し、キャリア教育としての学びを深める ・キャリアパスポートを活用し、キャリア教育を推進していく	・学園ステイや、英語の授業での交流などを通して、中学生・高校生とつながる機会を設けている ・きょうだい学年のつながりを通して先輩の姿から学びを深めている ・フィールドワークを実施し、キャリア教育としての学びを深めている ・キャリアパスポートを活用している	ーム・プログラム」を実施した ・学園ステイで看護師として海外に留学している藤井清文さんを招いて、「ドリーム・プログラム」を実施した ・世界陸上に出場したやり投げ選手である崎山雄太さんを招いて、6年生が「ドリーム・プログラム」を実施した（陸上教室） ・学園ステイで、中学校の授業体験やクラブ見学ツアーを行った ・中学3年生を招いて、キャリア教育プロジェクト「先輩に聞こう」を実施した ・きょうだい学年のつながりを通して先輩の姿から学びを深めた ・予定された校外学習（フィールドワーク）を実施し、キャリア教育としての学びを深めた ・キャリアパスポートを活用し、自身を振り返る記録を留めた
(4) 家庭学習の定着 1. 家庭学習の手引きを活用 2. ドリルパークの積極的な活用 3. 各学年の家庭学習の目標時間の達成を目指す	・「家庭学習の手引き」を活用して、家庭学習の定着を図る ・家庭学習において、ドリルパーク（WEB 学習教材）を活用する ・「家庭学習の手引き」に示された各学年の家庭学習時間を目標とする取り組みを通して、学習の習慣を身につける	・「家庭学習の手引き」を保護者に配布し、家庭学習の定着を図っている ・家庭学習において、ドリルパーク（WEB 学習教材）を活用している ・「家庭学習の手引き」に示された各学年の家庭学習時間を 80%の児童が達成している	・「家庭学習の手引き」を保護者に配布し、家庭での協力をお願いし、家庭学習の定着を図った ・家庭学習において、ドリルパーク（WEB 学習教材）の活用を進めた ・「家庭学習の手引き」に示された各学年の家庭学習時間を 73.8%の児童が達成した

〔Ⅲ〕安全で健康的な学校生活の確立

今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標	自己評価
(1) 安心・安全な環境づくりの推進 1. 防犯、防災教育の推進 2. 教員の見守り、引率で登下校の安全を確保 3. 児童部が主導しての安全指導 4. 児童の主体的な取り組みを推進（朝会での発表・標語のコンクールなど） 5. 日常的にルールを守ることを指導 6. 安全点検を実施（月末点検） 7. 危険回避についての教員研修の実施	・年間計画に基づいて、防犯、防災のための指導・訓練を実施する ・教員が登下校時にポイントに立ったり、引率したりして、児童の安全を確保する ・児童部が主導して安全指導を行う ・なかよし会（地域別児童班）で、地域別安全指導を行う ・児童の主体的な取り組みを推進するため、児童が朝会で発表したり、標語のコンクールを行ったりする ・児童部を中心に、日常的に学校生活のルールを遵守するための指導を行う（朝会・給食時の指導） ・通学時には、進んで挨拶をすること、車内や通学路では「思いやりノートーク」運動を行うことを指導する ・毎日、校内を巡回し、安全点検を行う ・校内各所の安全点検を実施する（月末点検） ・防犯、防災、安全、健康面での危険回避についての教員研修を実施する	・年6回の各種訓練（避難・防災・防犯）や安全教室を実施している ・教員が登下校時にポイントに立ったり、引率したりして、児童の安全を確保している ・児童部が主導して安全指導を行っている ・学期ごとになかよし会で、安全指導を行っている ・児童の主体的な取り組みを推進するため、児童が朝会で発表したり、標語のコンクールを行ったりしている ・児童部を中心に、日常的に学校生活のルールを遵守するための取り組みを行っている（朝会・給食時の指導） ・通学時には、進んで挨拶をし、車内や通学路では「思いやりノートーク」運動を行っている ・毎日、校内を巡回し、安全点検を行っている ・校内各所の安全点検を実施している（月末点検） ・防犯、防災、安全、健康面での危険回避についての研修を実施している	・年6回の各種訓練（避難・防災・防犯）や安全教室を実施した ・教員が登下校時にポイントに立ったり、引率したりして、児童の安全を確保した ・全教員による毎朝の登校指導を実施した ・児童部が主導して、朝会で安全指導を行った ・学期ごとになかよし会で、安全指導を行った。危険な場所、自転車の乗り方、道路の危険、繁華街に児童だけで行かない、誘拐から身を守るなどについて指導した ・児童の主体的な取り組みを推進するため、月1回の児童朝会を実施した ・生活標語のコンクール（ハガキコンクール）を行った ・通学時には、進んで挨拶をし、車内や通学路では「思いやりノートーク」運動を行うよう、朝会や学級で指導した ・ノーベルトレイン（車内読書）を推進するため、頑張りカードの取り組みを行った ・毎日、校内を巡回し、安全点検を行った ・校内各所の安全点検を実施した（月末点検） ・防犯、防災訓練を通して、今後の改善について討議した

			・プールでの事故の対応、AED の使い方についての研修を実施した
(2) 健康づくりの推進 1. 年間計画に則った体力づくりの推進（外遊び強化期間、鉄棒、縄跳び、持久走の取り組み） 2. 養護教諭による児童への健康指導 3. 食育教育の推進 4. 体力テストを実施し、児童の体力増進を促す	・年間計画に則った体力づくりを推進する（外遊び強化期間、鉄棒、縄跳び、持久走の取り組み） ・養護教諭による児童への健康指導を実施（朝会・身体測定時・「ほけんだより」など） ・栄養教諭による食育の授業を実施 ・SDGs の取り組みと連動させながら、食の大切さについて学ませる ・体力テストを実施し、その結果を通して、児童の体力増進のための取り組みを行う	・年間計画に則った体力づくりの推進している（外遊び強化期間、鉄棒、縄跳び、持久走の取り組み） ・養護教諭による児童への健康指導を実施している（朝会・身体測定時・「ほけんだより」など） ・栄養教諭による食育の授業を実施している ・SDGs の取り組みと連動させながら、食の大切さについて学んでいる ・体力テストの結果を通して、児童の体力増進のための取り組みを行っている	・年間計画に則った体力づくりを実施した（外遊び強化期間、鉄棒、縄跳び、持久走の取り組み） ・5月の体力向上月間では、体育委員会の児童の発案で、外遊び元気カードを書いてポストに投函すると、しおりやブックカバーが貰える企画を行い、外遊びに励む児童が増加した ・サイネージに掲示されるなわとびギネス一覧を励みに、児童は、なわとびに意欲的に取り組んだ ・持久走期間の取り組みを通して、マラソン大会に向けての意欲を高めることができた ・養護教諭による児童への健康指導を実施した（朝会・身体測定時・「ほけんだより」など） ・養護教諭から、集中健診後の受診を保護者に促した ・栄養教諭による食育の授業を実施した（1学期） ・SDGs の取り組みと連動させながら、食の大切さを児童に伝えた ・体力テストでは、A判定の児童数は減ったものの、合計点では6年男子を除いて全国平均を上回る結果であった

(3) いじめを未然に防ぐ教育の推進 1. 新たに策定した「いじめ防止基本方針」に則り、いじめの未然防止に努める 2. いじめ見逃しゼロを目指す 3. 児童の状況を把握できるよう教員の研修を行う 4. いじめ防止対策委員会が迅速に対応する 5. 道徳教育を強化し、児童の心の育成を図る 6. 家庭との連携を強化	・本年度、新たに策定した「いじめ防止基本方針」を全教員で確認し、いじめの未然防止に努める ・いじめ見逃しゼロを目指すし、日常的に児童の様子を丁寧に観察する ・各学期、「学校生活アンケート」を実施し、児童の状況を把握する ・いじめや不登校、ASD、ADHD についての教員研修を実施する ・心配な事案が発生したときは、いじめ防止対策委員会が迅速に対応する ・いじめ防止のために、道徳教育を強化し、児童の心の育成を図る ・いじめの早期発見のために、心配な児童の様子があれば家庭に伝え、綿密に連携をとるようにする	・「いじめ防止基本方針」を全教員で確認し、いじめの未然防止に努めている ・日常的に児童の様子を丁寧に観察している ・各学期に1回、アンケートを実施している ・いじめや不登校、ASD、ADHD についての教員研修を実施している ・いじめ防止対策委員会が迅速に対応している ・いじめ防止のために、道徳教育を強化している ・家庭と綿密に連携をとっている	・本年度、新たに策定した「いじめ防止基本方針」を全教員で確認し、いじめ防止の研修会を開催した ・「いじめ見逃しゼロ」の対応をしていくことを確認し、教員間で情報を共有した ・4月の全校保護者会でいじめについての資料を配布。いじめについての理解を深め、具体的な対処の仕方について説明した。家庭と学校が密に連携を取り合い、いじめ防止に努めていくことを確認した ・日常的に児童の様子を丁寧に観察し、管理職とも連携を密にした ・各学期に1回、アンケートを実施した ・児童セーフティーネット研修として、いじめや不登校、ASD、ADHD についての教員研修会を実施した ・児童サポートミーティングで ASD、ADHD についての研修を重ねた ・いじめ防止対策委員会が迅速に対応できる体制を整えた ・いじめ防止のための道徳の授業を実施した ・教員が積極的に家庭訪問し、家庭との連携を強化した
---	---	---	--

〔Ⅳ〕教員の資質・能力向上のための研修の充実と業務改善

今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標	自己評価
(1) キャリア研修の充実 1. 初任者教員（教員歴 1・2・3 年目）の研修を実施 2. 青年教員（教員歴 4・5・6 年目）が Find! アクティブラーナーを積極的に視聴 3. 創価学園が主催する 2 年目研修、10 年目研修への参加	- 研究部が主体となり、年間計画に則って初任者教員の研修を実施する - 青年教員が Find! アクティブラーナーを積極的に視聴していく - 創価学園が主催するキャリア研修に参加する	- 年 6 回の初任者研修会を行い、教師力を高めている - 青年教員が Find! アクティブラーナーを積極的に視聴している - 創価学園が主催するキャリア研修に参加している	- 年 6 回の初任者研修会を行い、教師力を高めることができた - 毎月の職員会議で青年教員が Find! アクティブラーナーを視聴しての研修報告を行った - 創価学園が主催するキャリア研修に参加し、見識を深めることができた
(2) 教育力向上の研修の充実 1. Find! アクティブラーナーの活用 2. Find! アクティブラーナーの視聴内容を共有 3. 研究部が主体となつての校内研修の実施 4. 主体的な学びと学力の定着を目指した各教科での実践を学ぶ	- 各自が自己研鑽のために、Find! アクティブラーナーを活用する - Find! アクティブラーナーの視聴内容を共有する - テーマ別の校内研修を実施する - 校内研修において、主体的な学びと学力の定着を目指した各教科での実践を学ぶ	- 各自が自己研鑽のために、Find! アクティブラーナーを活用している - Find! アクティブラーナーの視聴内容を全教員に共有している - テーマ別の校内研修を実施している - 校内研修において、主体的な学びと学力の定着を目指した各教科での実践を学んでいる	- 創価学園が主催するキャリア研修に参加した教員が、Find!アクティブラーナーを活用した - Find! アクティブラーナーの内容を全教員に共有した - 研究部が主体となり、テーマ別の校内研修会を実施した - 授業学習会の実施で授業力の向上を図った - 梶田叡一先生をお迎えして、授業研究会を実施し、主体的な学びと学力の定着について学んだ - 金山憲正先生をお迎えして、授業研究会を実施し、主体的な学びと授業での展開について学んだ - 研究協議会を伴う研究授業を 9 名の教員が実施した - 毎週、教育アドバイザーの金澤孝夫先生に授業を参観していただき、授業力向上につなげることができた

(3) 幼小中連携教育の推進 1. 札幌創価幼稚園での教員研修に参加 2. 札幌創価幼稚園の年長児と1年生の交流の実施 3. 6年生の学園ステイの実施 4. 関西創価中学校の授業を参観 5. 中学生生活ガイダンスの実施 6. 小中連絡会議の実施	・幼小連携のため、札幌創価幼稚園での教員研修に参加する ・札幌創価幼稚園の年長児と1年生の交流を実施する ・小中ブリッジプログラムの一貫として、6年生の学園ステイを実施する ・関西創価中学校の授業を参観する ・中学へのスムーズな移行ができるように、中学生生活ガイダンスを実施する ・3学期に連絡シートなどを活用し、小中連絡会議を実施する	・札幌創価幼稚園での教員研修に参加している ・札幌創価幼稚園の年長児と1年生の交流を実施している ・6年生の学園ステイを実施している ・関西創価中学校の授業を参観する ・中学生生活ガイダンスを実施している ・3学期に連絡シートなどを活用し、小中連絡会議を行っている	・札幌創価幼稚園での教員研修に3名の教員が参加した ・札幌創価幼稚園の年長児と1年生の交流を実施した ・小中ブリッジプログラムの一貫として、学園ステイを実施した ・関西創価中学校の探究学習発表会を参観した ・中学生生活ガイダンスを実施した ・連絡シートなどを活用し、小中連絡会議を実施した
(4) 教育システムを活用し業務改善の推進 1. 教務部が中心になり業務の改善を推進 2. シームスのシステムを効率化 3. Google ドライブの活用を効率化 4. 情報の共有を推進	・教務部が中心になり業務の改善を推進する ・シームスのシステムの効率化を図る ・Google ドライブの活用効率化を図る ・教育システムにおける情報を共有し、業務改善を推進する	・教務部が中心になり業務の改善を推進している ・シームスのシステムの効率化を図っている ・Google ドライブの活用効率化を図っている ・教育システムにおける情報を共有し、業務改善を推進している	・教務部が中心になり、業務の改善を推進した ・「ひまわり先生」、「メタモジ」の活用で業務の効率化が図られた ・シームスを活用し、通知表・出欠確認など安定した運用ができた ・Google ドライブの活用効率化を図った ・教育システムにおける情報を共有し、業務改善を推進した

7. 自己評価の結果と分析・学校関係者評価委員会から

自己評価の結果と分析	学校評価委員会から
〔Ⅰ〕「豊かな心」を持つ「世界市民」を育むための教育の推進 ＜「豊かな心」を持つ「世界市民」を育むための教育の推進＞の重点目標 4 項目における自己評価で、「十分達成できた」「少しは進んだ」との回答の平均は、87.3%（自己評価の数値の平均は 3.2）であった。 「創立精神の深化」について、「十分達成できた」「少しは進んだ」との回答は、97.1%（自己評価の数値は 3.3）であった。コスモタイムやファウンダータイムの実施が、創立精神を学ぶ大事な時間になっている。今後は、コスモタイムの「ねらい」を更に明確にしながら進めていきたい。 「道徳教育の充実」について、「十分達成できた」「少しは進んだ」との回答は、77.2%（自己評価の数値 2.9）であった。昨年度は 60%であったので、評価は上がっている。しかし、道徳の学習については、児童が実感として感じられるようにしていく必要があること、また、児童に道徳心が育っているか、確認しながら進めていかなければならないことから、教員は、そこに難しさを感じている。児童が実感できる道徳の授業を目指しているが、まだ、児童自身の納得感が伴う状況にはなっていない。来年度は、児童の心を育成するために、道徳の研究授業を行い、全教員で道徳学習の在り方を模索していきたい。 「読書教育の推進」について、「十分達成できた」「少しは進んだ」との回答は、88.9%（自己評価の数値 3.3）であった。図書の時間の司書による読み聞かせを定着させることができた。各学年の推奨図書である「チャレンジ図書」の読了については、児童が進んで読書に取り組めるような働きかけが大事である。今後も児童が良書に親しめるような工夫をしていきたい。本年度のノーベル図書館の年間貸し出し数は 22,123 冊、一人当たりの貸し出し数の平均は 39 冊だった。全校児童の「チャレンジ図書」の読了者は 83%だった。更に、多くの本を読めるように促していきたい。教員による読み聞かせ、保護者による読み聞かせを積極的に行い、良書に親しむ経験を重ねる中で、児童の心を育てていきたい。本年度は 1 年生の教員が読み聞かせを頑張り、年間 250 冊以上の本の読み聞かせを行った教員もいた。全校保護者会でも、保護者に家庭での読み聞かせをお願いした。 ユネスコスクール・キャンディデート校として、体験学習には積極的に取り組んだ。きょうだい活動や環境・平和・人権の分野における体験学習を生活科や創価タイム（総合的な学習）の時間に実施。昨年度までの実績を踏まえ、更に発展させることができた一年だった。4 年生では初めて地域の老人会の方をお迎えして交流することができ、地域の方との心温まる一時を過ごすことができた。また、織田友理子さんの講演は児童の人権意識を高める機会となった。 ICT 機器については、本年度から更に授業での活用が増えた。家に持ち帰るようになったが、児童が情報モラルを意識して使用していかないと心配な状態が生じてしまう。セキュリティも強化しながら、安全で効果的な ICT の活用を進めていきたい。 来年度も多くの方を小学校にお迎えし、交流を通して、児童の可能性を開くチャンスを作っていきたいと思う。	・道徳教育についての難しさを感じるものの、先生方が児童自身の納得感が伴うようにと努力されていることは素晴らしいと思う。 ・道徳はゴールの見えにくい課題だ。交流、話し合い等を多く取り入れて取り組んでいかれたらよいと思う。 ・児童が創立精神に触れる機会を通し、自分で語れるようになればと思う。 ・読書については、我が子も大好きな 1 冊を見つけることができたのが良かった。寝る前の読書習慣が身に付いたのも学校のお陰だと感じる。 ・我が子は読書が苦手だったが、学校の取り組みのお陰で読めるようになった。 ・保護者としてはチャレンジ図書を読み終わったあとに何を読ませるのか迷っている。何か次の一覧があれば有難いと思う。 ・朝読書に自主的に取り組めるようになってきた。1 日の中で読み聞かせをするように心がけてきた。 ・読み聞かせはどの年齢にも大切だと認識している。 ・ユネスコスクールについては、本人からも話をするのがあり、心に入っていることがわかった。 ・4 年生が初めて地域の老人会の方との交流をしたことが良かった。身近なところに体験学習を広げることができた。

	・ICT 教育については、親もよく分からないので学校で教えていただけるのは有難い。 ・ICT 機器については、徹底してモラルを教えてほしいことは当然の前程として、セキュリティはもっと確立してほしい。学校から支給されたものは学習だけに使えるようにしてほしい。
〔Ⅱ〕「確かな学力」の定着で可能性を伸ばす教育の推進 ＜「確かな学力」の定着で可能性を伸ばす教育の推進＞の重点目標 4 項目における自己評価で、「十分達成できた」「少しは進んだ」との回答の平均は、84.8%（自己評価の数値の平均は 3.3）であった。 確かな学力を定着させるために、お互いの授業を参観できる期間を設け、児童が主体的に学べる授業へと改善を重ねた。教員それぞれが自分のテーマを掲げ、授業の流れを工夫した。児童の主体性を引き出すための授業実践を公開授業、研究授業で実施した。 本年度は、家庭学習で SOKA ノート（自主学習ノート）の活用を推進するために、SOKA ノートグランプリを 2 回開催。児童のモチベーションを高める企画となった。ドリルパーク（WEB 学習教材）の活用を進めてきたが、初年度であったため、学校や家庭での活用は十分であったとはいえなかった。引き続き効果的な活用方法について検討していきたい。 本年度は、東京書籍の標準学力調査からベネッセの総合学力調査に変更した。11 月に実施し、1 月に結果が分かったため、結果を通して児童の課題を分析し、年度内に個別指導につなげることへの難しさがあった。 昨年度に引き続き、学力保障のための放課後の補習（スペシャルスタディ）では、6 年生に、中学を先取りした学習を行った。意欲的に取り組んでいる姿が見られるため、今後も児童の意欲を高める一助としていきたい。 漢字検定の合格率が 97.3%であった結果から、教員の個別指導や家庭学習における一定の効果があったことが認められた。 「英語教育の充実」について、「十分達成できた」「少しは進んだ」との回答は、94.5%（自己評価の数値は 3.4）と、とても高い評価であった。授業では、Speaking の活動を充実させることに努め、体験的な学習を取り入れた。Duolingo、E ステキッズ（オンライン多読）、英検 Jr. オンラインラーニングなど、ICT 使った教材も活用した。Special English Day の内容の充実を図ったことや、英検ジュニア、創作者杯英語暗唱大会への取り組みが、児童の達成感につながった。ジャマイカのリチャーズ駐日大使、インド創価女子大学のクマナン博士をお迎えしての交流会や授業参観は、世界に目を向け、英語学習へのモチベーションを高める貴重な機会になった。 本年度は、卒業生から体験を聞く「ドリーム・プログラム」を多く実施することができ、充実していた。様々な機会先輩の話を聴き、キャリア教育としての学びを深めた。中学 3 年生を招いての「先輩に聞こう」の企画を通して、中学への期待を膨らませることができた。 家庭学習の定着については、まだ、課題が見られる。家庭学習の各学年の目標時間に対する達成者は、2 学期の調査で 73.8%であった。昨年度より達成者は増えてはいるものの家庭学習がまだ定着していない児童も多い現状である。SOKA ノートグランプリは家庭学習の定着における効果が大きいと、来年度も継続し、児童が進んで学習に取り組めるようにしていきたい。家庭で過ごす時間をメディア視聴の時間に費やしてしまっている児童もいる。メディアの視聴が家庭学習を妨げることにならないよう対応していきたい。	・SOKA ノートグランプリを通して自主学習をする様子が見られた。グランプリだけではなく、こつこつと地道に頑張っている子にも光を当てたらどうかと思う。 ・我が子は、課外クラブの練習などのため、自主学習に取り組めていない。もう少し学習の習慣が身に付くようにしたいので、今後も助言もお願いしたい。 ・自主学習は、その子にとって勉強に向かいやすい生活リズムの確立と褒め言葉が大事だと感じる。 ・ドリルパークの活用をはじめ予習タイプの学習も、引き続きチャレンジさせたい。 ・英語教育では、新たなアプリを活用するなど、楽しく取り組む工夫を感じた。 ・英語教育は、創価ならではの取り組み（海外の識者や創価大学留学生との交流など）が出来ていると思う。 ・6 年生が中学生の先輩から話を聞かせてもらったことは、リアル感があり、安心感につながったようである。

【Ⅲ】安全で健康的な学校生活の確立 ＜安全で健康的な学校生活の確立＞の重点目標 3 項目における自己評価で、「十分達成できた」「少しは進んだ」との回答の平均は、92.6%（自己評価の数値 3.1）であった。 本年度も、安心・安全な環境づくりの推進のために、計画的に防犯・防災訓練を実施した。児童部が中心になって登校時の指導や車内での見守りを行った。校内での安全指導にも力を注いだ。頑張っている児童を「ほめる」ことを重視し、頑張りカードを作成したり、コンクールを行ったりして、児童を称える機会を設けた。児童朝会を月に 1 回行うことにし、児童が主体的に学校生活に関わっていけるようにした。 体育推進委員会が中心になり年間計画に則った体力づくりにも取り組んだ。5 月の体力向上月間では、体育委員会の児童の発案で、外遊び元気カードを書いてポストに投函すると、しおりやブックカバーが貰える企画を行い、外遊びに励む児童が増加した。また、デジタルサイネージに掲示されるなわとびギネス一覧を励みに、なわとびに意欲的に取り組む児童も多くいた。少しの工夫で児童の意欲が向上していくことを実感する取り組みであった。体力テストでは、A 判定の児童数は減ったものの、合計点では 6 年男子を除いて全国平均を上回る結果であった。2 連覇を果たした「おおさか子ども EKIDEN」に出場したメンバーは、朝からのランニングを通して、体力が向上し、授業中の集中力も増した。3 月からは希望者が参加して、体力づくりのために、朝のランニングを実施することになった。 児童にとって学校が安全で安心できる場所であるように、いじめを未然に防ぐための対応に努めた。本年度は、「いじめ防止基本方針」を改訂し、全教員で研修を重ね、「いじめ見逃しゼロ」を目指した。教員が児童に温かく関わり、いじめが起らない学校の環境を整えていくことにも取り組んだ。「いじめを未然に防ぐ教育の推進」について、「十分達成できた」「少しは進んだ」との回答は、94.5%（自己評価 3.1）であった。全教員が同じ目線に立って、いじめを未然に防いでいこうと努力することができたと思う。また、児童理解のために、毎週児童サポートミーティングを行い、教員間で情報の共有を行った。	・防犯、防災はしっかり取り組まれていると感じる。電車の中で大きな地震が起きたときの対処法などについては、更に指導を重ねてほしい。 ・朝のランニングは、駅伝に限らず、体力向上の取り組みになっている。家庭としても体力をつけさせたい。 ・いじめについて、日常的に「見逃しゼロ」を目指してよく取り組んでおられると感じる。 ・学校としてのいじめへの対応は、とても大切だと思う。
【Ⅳ】教員の資質・能力向上のための研修の充実と業務改善 ＜教員の資質・能力向上のための研修の充実と業務改善＞の重点目標 4 項目における自己評価で、「十分達成できた」「少しは進んだ」との回答の平均は、87.3%（自己評価 3.1）であった。 年 6 回の初任者研修会を実施し、青年教員が毎月の職員会議で「Find! アクティブラーナー」を視聴しての研修報告を行うことができた。 研究部が主体となり、授業や学級経営についての研修会（授業学習会）を実施。先輩教員の模擬授業などを通して研修したことが、若手教員の学びにつながった。多くの教員の実践が共有できたことは、大変有意義だった。梶田叡一先生や、金山憲正先生をお迎えして、授業力向上のための糧となる研究会が実施できた。また、研究協議会を伴う研究授業を 9 名の教員が実施し、充実した研究協議会となった。毎週、教育アドバイザーの金澤孝夫先生に授業を参観していただき、アドバイスをしていただいたことは、教育力向上、授業力向上につながったと思う。「教育力向上の研修の充実」について、「十分達成できた」「少しは進んだ」との回答は、97.2%（自己評価 3.3）であり、多くの教員が学びを深めることができた実感していた。 本年度も札幌創価幼稚園での研修に 3 名の教員が参加し、幼児期における教員の対応について研修したり、小中連携の一環として、中学校の探究学習発表会を参観できたりしたので、今後も一貫教育の流れを強化していきたい。 光文書院のテストの採用や授業支援アプリの「メタモジ」の使用、デジタルドリルである「ドリルパーク」の導入などで、学習を効率的に進めることができた。また、「Google classroom」も積極的に活用したため、業務の改善につながったと思う。今後もこれらのシステムをより効果的に活用していきたい。来年度は、初任者が多くの研修に参加し、教師力や授業力をつけられる体制を整えていきたいと思う。	・教員が、大変に忙しい中で色々な研修を受けているのはありがたいと感じている。 ・業務を効率化しているのは、良いことだと思う。 ・「業務改善の推進」については、更に取り組んでいかれたらよいと思う。

8. 総括と改善

自己評価と学校関係者評価を踏まえ、今後の重点的な目標・改善方策および学校運営のあり方について以下にまとめた。

(1) 今後、重点的に取り組む目標

- ①「豊かな心」を持つ「世界市民」を育むための教育に力を入れる。「世界市民」とは、自分を大切にできる人、周りの人を大切にできる人であるとも言える。このことを踏まえて、道徳、コスモタイム、ファウンダータイムなどを通し、他者を思いやる優しい心を育てていく。また、英語教育の充実にも力を入れ、ネイティブとの触れ合いや、海外の方々との触れ合いの機会を設けていく。各教科においても、教材で世界とのつながりを意識していく。
- ②児童に主体的に取り組む力を身につけさせる。そのために、児童が主体となって活躍できる場、学級活動や、朝会などを積極的に活用していく。各教科においても、児童が主体的に取り組めるよう、授業を展開していく。
- ③児童が主体になり、人や自然との関わりを実感できる「創価タイム」の学びを進めていく。
- ④ICT 機器を活用しての学習活動を積極的に進めていく。メディアリテラシーの教育を重視し、継続的、継続的に取り組めるように系統立てていく。関西創価小学校ならではのスタンダードを構築し、ICT 機器の活かし方や使い方を児童に指導していく。
- ⑤生活のマナーを身につけさせる取り組みを児童部が中心になって進めていく。
- ⑥学校が児童にとって安心できる場、教師は安心できる存在になっていく。

(2) 今後の改善方策

本年度、授業における ICT 機器の活用を進めることができたが、児童が端末を家庭で使用するについての課題が見られた。ICT 機器を積極的に活用して学習活動を進めていくことについて、メディア教育推進部、ICT 委員会が中心になって課題についての改善に努めていく。

確かな学力の定着のために、国語・算数については、標準学力調査の結果を分析し、児童が個々の課題に取り組めるようにしていく。算数は、複数担当制になっているため、そのメリットを生かし、児童のつまづきを素早く発見し、きめ細かく関わっていく。また、教科部会で、教科における課題を明確にして、教師の授業力を向上させる。

自分が頑張ったことを評価してもらえると実感があるという実感が、児童の目標達成へのモチベーションになるため、特に、地道に努力している児童を称賛していく。多くの教師が、様々な角度から児童を認め、児童に「認めてもらえる」ことへの満足感を与えていきたい。

各学年の発達段階に合わせて、創立者の思想の学習を進め、他者への慈しみの心が溢れる学校にしていきたい。

(3) 今後の学校運営のあり方

保護者との信頼関係を深め、学校と家庭が連携を取り合い、児童の育成に取り組めるようにしていく。児童の課題解決に向けて、教師は丁寧に関わっていくように努める。

教師は児童の可能性を信じ、「一人も置き去りにしない」との精神で児童に関わっていく。児童が自分の個性や才能を伸ばしていけるよう、児童にとって学校は安心できる場、教師は安心できる存在になっていけるよう、学校運営に取り組んでいく。

更に、教科部会を通して教材研究を進め、児童の学力向上を図っていく。外部の講師をお迎えし、今後も教師の授業力向上に努めていきたい。

学校運営に関して、創立精神や教育方針を根幹に、教師間で、十分な協議が重ねられるよう配慮し、魅力ある学校作りを目指していく。「平和の心を育む」という本校の目指す教育への取り組みを、より一層推進していきたい。

以上